

会 議 録

会 議 名 (審議会等名)		令和 7 年度第 2 回小金井市廃棄物減量等推進審議会		
事 務 局 (担 当 課)		小金井市ごみ対策課		
開 催 日 時		令和 7 年 6 月 2 6 日 (木) 1 4 時～1 6 時 2 0 分		
開 催 場 所		小金井市野川クリーンセンター 研修室		
出席者	委 員	<出席者：1 2 名> 渡辺会長・岡山副会長・溝入委員・岸野委員・光明委員・中村委員・橋爪委員・平川委員・多田委員・長友委員・石原委員・井上委員 <欠席者：3 名> 林委員・清家委員・保谷委員		
	事 務 局	今井ごみ対策課長・立崎減量推進係長・竹内清掃係長・高橋施設係長・川端主任・千野主事		
	計 画 策 定 支 援 受 託 者	パシフィックコンサルタンツ株式会社 米田管理技術者、尾形担当技術者		
傍聴者の可否		可	傍 聴 者 数	0
会 議 次 第		1 開 会 2 報 告 3 議 題 (1) 小金井市一般廃棄物処理基本計画等について (2) その他		
会 議 結 果		別紙審議経過のとおり		
提 出 資 料		別添のとおり		
そ の 他				

渡辺会長	これより令和7年度第2回小金井市廃棄物減量等推進審議会を開催する。 清家委員・林委員が欠席。
立崎減量推進係長	(配付資料確認)
渡辺会長	(前回の会議録について確認) 特に修正意見はないようなので、市による公開手続きに移る。
高橋施設係長	(Instagram アカウント開設について報告)
中村委員	X や LINE における登録者数の伸び具合はどうなっているのか。始めるのはいいが、費用対効果は確認しているのか。やめどきなども見極める必要がある。
高橋施設係長	X は、市本体のアカウントと連携をしており、LINE も多数の市民の方に登録していただいている。 Instagram の開設にあたり、費用については、人件費以外の別途費用は掛かっていない。
今井ごみ対策課長	X は広報秘書課が権限を持っている。Instagram はごみ減量対策課独自の取り組みである。 X は文章ベースだが、Instagram は動画で、視覚的に情報発信をできるため、特に若年層をターゲットにした広報・啓発には効果が大きいものと考えている。 市公式 X のフォロワー数は 386 人、Instagram フォロワー数は 266 人である。令和7年4月からの短期間で相応のフォロワーを確保できたことは、狙った効果を得られるのではないかと期待している。
中村委員	大学生が小金井市に転入時にゴミ分別ルールを理解してもらえると効果的なので、小金井市は大学がいくつかあるため、大学の掲示板に掲示してもらうなど、普及促進いただければと思う。
策定支援受託者	(小金井市一般廃棄物処理基本計画 骨子案(抜粋)の説明)

橋爪委員	アンケートの回収率が前回よりも低い、要因は何か。
策定支援受託者	実施時期が異なるというのが可能性のひとつとしてある。
橋爪委員	年齢についてはどうだったか。
策定支援受託者	高齢者のほうが回答数は多い傾向ではあった。 Web 回答ができる状態も作ったので、若年層向けのフォローはできていると思う。
渡辺会長	今回のアンケート結果でも出ているように、年齢、年齢層と関心度合いに相関はあると思う。
光明委員	アンケート結果の図表に、設問を意味する「Q」という文字の記載があるものとないものが混在している。計画書に記載する図表には不要と思う。また、選択肢に番号があるものとないものもある。 さらに、P27 の文言で、居住年数は低いでなく短いという表現がいいと思う。
中村委員	組成調査組成は重量ベースだと見受けられる。比重が大きいものが割合的に大きくなると思う。計画策定にあたり、この結果をどのように活用するのか。例えば単位重量当たりの処理費用を掛けるなどによりコストを評価する視点が必要なのではないか。
策定支援受託者	組成調査結果は、ご理解の通り湿重量ベースであり、一般的な結果の示し方である。市の排出状況が実態として把握できていると思う。
中村委員	重量ベースという結果が、我々市民として、意味のあるものに変換しないと受け取り方がわからない。もうひと工夫必要なのではないか。
渡辺会長	何をもって意味があるかは難しい議論であるものの、重量デー

	タで評価する方法は標準的である。
今井ごみ対策課長	湿重量ベースで調査していることは明記しているため、巻末資料等でもう少しフォローできればと思う。 コストについては、自治体は一般廃棄物の適正な処理を確保する責務がある。そのため、単位重量当たりの処理費用がかかるからといった指標を元に要否を判断することはないということとはご理解いただければと思う。
渡辺会長	P38、紙類の割合が最も高く、今回の調査結果と大きく違うが、何か理由があるのか。
策定支援受託者	確認する。説明が難しい場合は、本頁の記載要否含め、検討する。
光明委員	P36、ゴム・皮革類/ゴム・皮革類以外があるが、ゴム・皮革類以外とは何か。
策定支援受託者	ゴム・皮革類は「くつ・かばん・ベルト」と「くつ・かばん・ベルト以外のゴム・皮革類」であり、ゴム・皮革類以外は「ゴム・皮革類ではないくつ・かばん・ベルト」が該当する。
今井ごみ対策課長	くつ・かばん・ベルトは拠点回収をやっているため、当該品目を確認させていただいている。組成調査は可燃ごみと不燃ごみで品目を統一させていただき実施しているが、表現の仕方は検討させていただく。
渡辺会長	分別基準に沿った排出かどうかは整理されたほうがいいと思う。
策定支援受託者	承知した。
岡山副会長	前回調査と調査項目が異なる可能性があるため、前回調査との比較部分は確認いただきたい。
策定支援受託者	確認・再考する。

光明委員	家庭平均というのがあるが、単純平均か。
策定支援受託者	単純平均である。全数調査ではなくサンプル調査であるため、加重平均はしていない。
溝入委員	この組成調査結果の表し方は図と表が全く整合しておらず、このままでは意味がない。表と図は合わせないといけない。また、資料編を見ないとわからないという位置付けにするべきではない。説明が必要な事項は本文内に注釈等を入れるのがよい。
策定支援受託者	表と図を合わせることは、修正する。注釈についても、「平均」の説明など、不足があれば追記する。
今井ごみ対策課長	平均値の算出方法は、受託業者と調整する。
岡山副会長	表は不要かもしれない。家庭平均は図に入れてもいいと思う。
溝入委員	国の動向からの課題の部分は、市としての課題に視点を置かないといけないのでは。市としての具体的な記載がないと意味がない。
今井ごみ対策課長	デジタル技術の部分など、市としてどう考えるか踏み込んで書けるようにしたい。収集車に GPS を導入する自治体も増えていると聞いている。
岡山副会長	「惣菜等の消費増加による」からの「容器包装プラスチック類の増加」など、直接の繋がりが見えづらいところがあると思うので、再考いただきたい。
中村委員	「コストがかかろうと、すべてのごみを適切に処理する必要がある」との発言があったが、処理コストが高いところからアプローチしていくことが重要だと思う。どのごみ種の処理費用が高いかは気にしないということか。

渡辺会長	費用以外の観点からプラスチックを減らしたいということになればプラスチックを減らそうキャンペーンを行うのは合理的。行政としては、すべての一般廃棄物を処理することが責務かと思う。
平川委員	スーパーなど、売る側が実施する取組はあるのか。
岡山副会長	ごみ袋の費用の関連で排出するためのコストが倍になったら、排出はされなくなると思う。またそこから、小売店側でも容器包装の変更等に対応せざるをなくなると思う。
井上委員	市民から言うしかないのか。コロナ以前は量り売りや小分け売りが選択できた。こういったことを言いたくて審議会の場に座っている。市からアプローチはできないのか。
渡辺会長	できると思う。
今井ごみ対策課長	市からアプローチができないわけではないが、事業者からは人員等の体制変更に要する費用の補助制度の創設等、一定の財政措置を要求されることが多い。今後、少子高齢化に伴い財源不足が懸念されるところ、財政負担の増に直結するような施策展開にもなり得る事案については、慎重な検討を要する。 市としては、3Rの中でもリデュース・発生抑制が最も重要であることから、なるべくごみにならない製品を買ってもらうなど、ごみを出さないライフスタイルを市民の皆様の日常生活の中に定着させ、それでも出てしまうものについては適正に処理するところを狙いとしている。
石原委員	ごみゼロ化推進員だった際、企業の本社にアプローチして、対応してくれたところもある。
今井ごみ対策課長	リサイクル推進協力店の認定要件が社会情勢と見合っていないところがあるので、修正を含めた対応を考えたい。
橋爪委員	アンケート回答者に対する礼状はないのか。アンケートと組成調査でどのくらい費用は掛かっているのか。

今井ごみ対策課長	パブコメ時、御礼のメッセージは発信する予定である。費用については、委託業務の中に含まれている。
策定支援受託者	(小金井市食品ロス削減推進基本計画(案)について説明)
石原委員	図9と表1の数値の整合がとれていない。
策定支援受託者	確認し、修正する。
井上委員	生ごみのたい肥化事業は今回の計画の対象になるのか。
渡辺会長	食品ロスは削減し、それ以外の生ごみは有効利用するというのがこの計画の趣旨なので、削減対象となる3項目が分かりやすいように表現してもらえるといい。
岡山副会長	策定支援受託者としても苦しいのが、国の食品ロスの定義がいまいなところである。物理的可食を食品ロスと定義することもある。小金井市としては食品ロス削減に向けて、未開封食品、未利用食品、食べ残しについて、最優先で発生抑制に取り組んでいくという整理になると思う。
今井ごみ対策課長	正副会長のご意見を踏まえると、P1 リード文の「生ごみたい肥化事業」はそぐわないかもしれない。受託業者と相談し、表現は改める。
光明委員	P3の棒グラフは、凡例の順序を合わせる。P10の3つの円グラフは、それぞれタイトルを入れるほか、図11の下を表記が一廃計画と異なるので合わせる。
中村委員	スーパーの見切り品を買ったら腐ったということもある。事業者からの食品ロスは減っても、家庭からの食品ロスは増えては意味がない。結局、いかに長く保存できるようにするかが重要。そういう内容に関する広報はしているのか。
渡辺会長	今後の施策の方向としてあると思う。

岡山副会長	飲食店での食べ残しを持ち帰る、ドギーバッグなどもあるが、事業者側にとってはリスクが大きいと、なかなか普及していない。
策定支援受託者	(ワークショップ(以下「WS」という。))について説明)
長友委員	子ども向けWSにおける対象年齢と目的②の効果は何か。
策定支援受託者	年齢は小学校3、4年生以上を想定、目的②は学習効果が主語になる。
中村委員	アプリで学習できるようにすると啓発効果が高まるのではないかな。
今井ごみ対策課長	対面でのグループワークや意見交換による参加者の知見を高め、いただくことが目的なので、基本は対面を想定している。カードを使っていただく想定。
岸野委員	前回WSで実施した、家電の分解WSはやらないのか。
今井ごみ対策課長	参加希望者が多く好評であるため、年1回、定期的には実施させていただいている。
多田委員	今回のWSについて、実施の時期はいつか。
今井ごみ対策課長	いずれも8月上旬に予定しており、大人向けは午後1回、子ども向けは午前・午後1回ずつ計2回、実施予定である。 7月の市報、特集号で参加者を募集する。定員はそれぞれ30名程度を想定している。
立崎減量推進係長	次回の審議会は令和7年7月30日(水)14時から、次々回の審議会は令和7年9月10日(水)14時から、それぞれ野川クリーンセンターで予定をしている。詳細は改めて連絡する。